

11. 国内外観光客の受け入れ事業との密接な連携について(運輸通信サービス業部会)

コロナ禍の規制緩和により、三島市内への国内外観光客が増加しているが、まちなかへの誘導や滞在時間の増加など着地型観光としての仕組みが希薄なため、結果的に単一施設観光や富士山や伊豆地域への通過地点となっており、回遊性の向上を図ることが重要です。

このような現状下、民間事業として三島市リノベーション推進計画のエリア内を中心に地域の観光再生、観光サービスの高付加価値化事業が計画されています。域内の施設や他の市内観光施設への回遊性を高めるため、多言語なまち歩きデジタルアプリの開発が合わせて行われるなど、国内外観光客の受入体制や、もてなし力の強化に向けて動き始めているのはご承知の通りであります。

については、エリア内の民間投資を促し、歩いて楽しい「ウォーカブルなまち」に大きく寄与する各プロジェクト事業が実現するよう密接な連携を図ることを要望します。

回答(商工観光課)

市内観光資源を活用した着地型観光の推進や、まちなかの回遊促進については、令和5年3月に策定された第3次三島市観光戦略アクションプランにおいても戦略のひとつとされており、市及び観光関係者などにより回遊性向上に向けた取組みを進めております。また「三島市まちなかりノベーション推進計画」につきましても、官民一体となったエリア全体のリノベーションを推進することでエリアの価値を高め、にぎわいの創出や民間投資を促すことを目的としており、現在、リノベーション研究会において施策を検討中、戦略を具現化するための各種事業等を実施しております。

このような中、民間事業として実施される市街地エリアを中心とした観光再生事業及び観光サービスの高付加価値化事業については、三島市もプロジェクトの一員として参画しているところであります。市といたしましては、三島市総合計画や、三島市まちなかりノベーション推進計画、三島市観光戦略アクションプラン等との整合性について確認を行うとともに、密に情報共有を行いながら、企画運営の調整や支援策の検討と、持続可能な観光地域づくりを推進するなど、地域計画のコンセプトにもあります、時間帯によって異なる賑わいを楽しんでいる街、早朝から深夜まで食事や買い物で賑わっている宿場町を目指し、プロジェクト実現に向けた取組みを一体となって行うよう、引き続き三島商工会議所、金融機関、商店街等と連携を図ってまいります。